



本校
ホームページ
QRコード

令和6年度全国学力・学習状況調査報告について

2学期の学校生活がスタートし、早速、定期テストを実施しました。夏休み後、学習面での今の力を確認することができたのではないのでしょうか。テストを終えた今、各自が成果や課題をおさえながら、これからの学習につなげていってほしいと思います。

今後は、体育祭に向けた取組がスタートします。周りの人と取り組みながら、自分自身や周りの人の良いところをたくさん発見していきましょう。集団力の高まりに期待します。

さて今回は、4月18日（木）に3年生を対象に実施された〔全国学力・学習状況調査〕の結果から、本校生徒の学力の定着状況や強み・弱みの分析等の内容より、今後の指導の方策等について保護者の皆さまに報告します。本調査で本校生徒の学力のすべてが把握できるものではありませんが、今後の学力向上の取組に活かしていきます。

国語

平均正答率は全国平均値を下回る結果となりました。各問題における無回答率は、全国平均値とほぼ変わらない状況です。あきらめずに問題に取り組もうとする姿勢は定着してきているようです。生徒質問紙から見られる特徴として、『国語の勉強は大切だと思う』『国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う』という設問に対し、肯定的な回答の割合は全国平均値を上回っています。『文脈に即して漢字を正しく書くこと』『目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる』に係る設問での正答率が低いという状況でした。引き続き、文章を読み取り、自分の考えを書いたり、他の人へ説明したりする取組の継続が必要です。

<強み> 身近な問題、いわゆる実生活の中で経験のある問題では正答率が高いことが分かった。例えば、本の選び方や班での話し合いの内容の整理、円滑な方法など身近でも経験のある問題は正答率が高かった。日頃の生活や学習環境のなかで知識として定着していることがうかがえた。

<弱み> 経験がなく学習することでしか身に着けられないような知識や反復練習の必要な漢字などは、数値として低い結果となった。意識調査の設問でも、家庭学習の時間の短さ、スマホなどの使用時間の長さは全国・県と差があり、家庭学習が定着していない現状もみえてきた。

《方策》

- 表現力や読解力の力を伸ばすために、たくさんの文章に触れさせるように工夫していきたい。
- 引き続き、『書くこと』の力を育てていくため、教材やテーマ・条件等を工夫し、国語以外の教科でも「書く」活動を継続的に設定する。
- 新しい学習課題に意欲的に取り組めるよう、学習活動のねらいの確認や振り返り活動を通して基礎学力の定着を図るなど授業改善を進める。

数 学

平均正答率は全国平均値を下回る結果となりました。各問題における無回答率は、全国平均値とほぼ変わらない状況です。あきらめずに問題に取り組もうとする姿勢は定着してきているようです。生徒質問紙から見られる特徴として、『数学の勉強は大切だと思う』『数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える』という設問に対し、肯定的な回答の割合は全国平均値を上回っています。引き続き、数学を学ぶことの楽しさや、学んだことを日常生活につなげられるような取組を継続していくことが必要だと考えます。

＜強み＞全国と比べ、二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問いについて、全国平均値と同程度の正答率であった。また、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問いについて、全国平均値を上回っていた。このことから、グラフを実際の現象と関連付けて考えることが定着してきていることがわかった。

＜弱み＞連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる設問、等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる設問をはじめとした、基本的な数学的な知識・技能を問う問題の正答率が低かった。

《方策》

- 学習内容が「分かること」は教科の『好き』にもつながる。引き続き、各学年において基礎の定着を図るなど指導の工夫・改善に努めていく。
- 計算の方法はもちろん「データから考える」ことの指導を継続的に行っていく。
- 自身で考えをまとめたり、仲間の考えを通して自身の考えを整理したりするなどして、数学的な思考・判断・表現力をつけ、記述することに慣れるよう指導していく。